

＜藤山台中学校区＞学校統合に向けた第2回意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年11月29日（土）午前10時～正午

2 開催場所

東部市民センター 多目的室

3 参加者数 11名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	課長	前原 敦
〃	〃	主幹	梶田 傑
〃	〃	主幹	梶田 英男
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

学校統合に向けた検討について

5 会議資料

＜藤山台中学校区＞学校統合に向けた検討について

午前 10 時 開会

1 開会

【教育部長あいさつ】

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、御礼申し上げます。

本市では子どもたちの急増に対応するため、昭和 60 年度までに学校の新築や増築を急ピッチで行ってきました。ところが、今や全国的に少子化が進む中、本市でも子どもたちの数が減少しており、この先、小学生は令和 13 年度で、ピーク時から 56.5%の減少、つまりは半分以下になっていきます。藤山台中学校区においては、さらに大きな割合で減少し、藤山台小学校の令和 13 年度ではピーク時から 88.6%の減少、また、藤山台中学校の令和 19 年度では 92.7%の減少になると推計しています。

こうした状況から、小中学校の適正な規模や配置について検討を進めるため、これまで、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の 5 つの中学校区において、保護者や地域の方を対象にアンケートを実施し、また、学校ごとに意見交換会を実施してきたところです。

これまで坂下地区とニュータウン地区で 17 校を対象に意見交換会を実施してきましたが、実に多くのご意見をいただいております。それぞれの地域にはそれぞれの実情があることを実感しています。ご意見の中には、市の具体的な方針がまだ示されていないというご意見もいただいております。現時点では、市として具体的な方針を決めるタイミングではなく、まずは皆様のご意見を受け止める時期と捉えております。そのため本日の意見交換会におきましても、今後の学校のあり方について春日井市教育委員会として具体的な方針をまとめるにあたり、地域の皆様の声をお聞きしたく、実施させていただくものでございます。藤山台中学校区につきましては、本日の意見交換会で、第 1 回の意見交換会よりも少し踏み込んで市の考え方を提案させていただこうと考えております。

学校は、地域の皆様にとって、防災や住民同士の交流の場など地域に根ざした施設であります。何よりも将来を担う子どもたちが学び成長していく大切な場です。まずは、子どもたちにとって学校がどうあるべきか、何が最善であるかという視点に立つことが重要であると考えています。どうなっていくか不安なことは多いと思います。一方で、新しくなるかもしれない学校の姿に大きな期待を抱くこともたく

さんあるかと思います。皆様と一緒により良い学校の姿を考えていけたらと思います。

本日は皆様のきたんのないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。まして挨拶とさせていただきます。

2 議題

(1) 学校統合に向けた検討について

【事務局】

I 小中学校の適正規模等の取組について（資料1～4ページ）

- ・日本の人口は減少局面に入り、全国的に出生率が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいる。
- ・本市の小学生の人数は、昭和56年度の30,636人をピークに、令和13年度には約57%減少の13,312人に、中学生の人数については、昭和61年度の15,330人をピークに、令和19年度には約59%減少の6,221人になると推計している。
- ・子どもたちの数の減少により、今後、標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えている。将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進めている。
- ・本市では、今年の2月に「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を策定した。その中で、国の基準を参考に、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から、学校規模の区分を設けた。学級数の基準については、現行の1学級あたりの児童生徒数の基準で推計しており、小学1年生から中学1年生までは35人、中学2年生及び3年生は40人としている。
- ・規模が小さい学校の主なメリットは、次のことがあげられる。
 - ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
 - ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
 - ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
 - ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ・規模が小さい学校のデメリットのうち、学級数が少ないことによる主な課題については、次のことがあげられる。
 - ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。

- ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。
- ・規模が小さい学校のデメリットのうち、教職員数が少なくなることによる主な課題については、次のことがあげられる。
 - ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
 - ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ・規模が小さい学校のデメリットのうち、学校運営上の課題が児童生徒に与える主な影響については、次のことがあげられる。
 - ① 集団の中で自己主張したり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
 - ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ・クラス替えが可能になることによる主なメリットは、次のことがあげられる。
 - ① 児童生徒同士の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。
 - ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
 - ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
 - ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。
- ・本市は、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えている。そこで、どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や、一部の学年でクラス替えのできない「小規模校」について、過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討することとしている。
- ・中学校区で見た場合に、将来すべての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、今年度に入り、小中学校のPTA役員の皆様への説明・意見交換をし、次に、保護者や子どもたち、地域の方へのアンケートを実施した。その後、対象の中学校区にある17校で第1回意見交換会を実施した。

Ⅱ 児童生徒数推計について（資料 5 ～ 6 ページ）

- ・ 中学校では令和 19 年度まで、小学校では令和 13 年度までは、令和 7 年度の 0 歳から 5 歳の子の実際の人口に基づき推計している。令和 22 年度は、市が人口の現状分析などから将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」と言われる計画から推計している。
- ・ 藤山台中学校は、今年度、生徒数 190 人、6 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数、学級数ともに減少し、令和 15 年度には、クラス替えができない学年がある「小規模」に、令和 16 年度からは、全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。
- ・ 藤山台小学校は、今年度、児童数 317 人、12 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 11 年度には「小規模」となり、令和 22 年度では「過小規模」とであると推定される。

Ⅲ アンケート結果について（資料 7 ～ 10 ページ）

- ・ 「1 学校の適正規模等に取り組むことについて」のうち、「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、「ぜひ進めるべき」又は「進める方がよい」と回答された「賛成」の方の割合は、藤山台小学校の保護者では 66.6%となっている。地域の方も小学校単位で集計しており、地域の方は 86.9%の方が賛成と回答している。また、藤山台中学校の保護者は、77.5%が賛成と回答している。
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答された「反対」の方は、藤山台小学校の保護者で 6.7%、地域の方は 0%、藤山台中学校の保護者で 2.9%となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を多くの方が心配している。
- ・ 前の質問で「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、又はお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、小学校、中学校ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。
- ・ 「2 複数学級を望む声について」では、複数学級が望ましいと考えている小学生の保護者は 98.3%、小学生では 95.9%となっている。また、中学生の保護者は 100%、中学生では 98.2%となっており、小学校、中学校ともに、多くの方が複数学級が望ましいと考えている。
- ・ 「3 学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」や「体育大会などの行事でクラスに活気がある

こと」が大事だと考えている。地域の方は「子どもたちの登下校」や「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」が重要と考えている。

- ・「4 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」などを重要と考えている。地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」をとっても多くの方が重要と考えている。
- ・「5 学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については安全性や時間が重要と考えている。

IV 意見交換会でのご質問・ご意見について（資料 11～18 ページ）

- ・藤山台中学校での意見交換会は9月22日に開催し、参加者は6人であった。藤山台中学校での質問は、「統合に関することについて」が5件、「今後の具体的な検討の進め方について」、「アンケートについて」がそれぞれ3件、「過大規模校への対応について」が2件、「市の考え方について」、「学校選択制について」などがそれぞれ1件の合計20件であった。

その中から質疑応答の主なものを紹介する。

12 ページの質問No.3「1学級あたりの子どもの数を減らして、学級数を増やす対応を取ればよいのではないか。」との質問では、「本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校の2、3年生は40人としており、その基準をもって教員数が配置されています。1クラスあたりの子どもの数を減らし学級数を増やしても、教員が配置されないことから、市独自の基準で実施することは困難です。」と回答している。

質問No.6「今後の方向性を示すタイミングはいつ頃を考えているのか。」との質問では、「今回の意見交換会は、学校の適正規模や適正配置の取組に対し、まずは様々な立場の方の意見をお聞きしたいと考え開催しました。いただいた意見を踏まえて、より具体的に今後の方向性を示したいと考えています。時期は未定ですが、スピード感をもって取り組んでいきます。」と回答している。

13 ページの質問No.17「統合が決定すると、現在の地域での活動はどうなるのか。」との質問では、「統合された場合は、一つの新しい集まりになると考えますが、今までの活動がなくなるわけではないです。地域によってそれぞれの良さがあるので、先進的に実施している活動を水平展開することや、学校と地域が引き続き協力し合うことが必要だと考えています。」と回答している。

- ・藤山台小学校での意見交換会は10月15日に開催し、参加者は18人であった。藤山台小学校での質問は、「市の考え方について」、「魅力ある学校づくりについて」がそれぞれ3件、「授業の内容について」、「今後の具体的な検討の進め方について」が

それぞれ2件、「1学級の人数について」、「その他の市の施策について」などがそれぞれ1件の合計21件であった。

その中から質疑応答の主なものを紹介する。

16 ページの質問No.8 「統合するとなった際のスケジュールを教えてください。」との質問では、「今後のスケジュールについては、今回、学校ごとの意見交換会で皆様から意見をいただき、次は藤山台中学校区全体で2回目の意見交換会の実施を考えています。その後については、保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成される協議会のようなものを立ち上げ、具体的な検討を進めていきたいと考えています。仮に統合となった場合も、学校施設について、既存の学校を使う場合、リニューアルする場合、新しい校舎を建てる場合によって期間が異なります。大規模な工事や改修をするとなると、設計の期間と工事の期間を合わせ、5年程度の期間が必要になると考えています。」と回答している。

質問No.12 「藤山台小学校の校舎は比較的新しいが、学校の適正な規模等に関する検討が進んで、校舎が使用されなくなることはあるのか。」との質問では、「仮に統合するとなった場合、どこの校舎や学校用地を使うということは今後検討していきたいと考えています。藤山台小学校を引き続き使用するかどうかは、現時点ではお答えできませんが、新しく機能が充実している学校なので、有効活用する方法を考えなくてはならないと思います。」と回答している。

18 ページの質問No.20 「未就学児の保護者を多く加えて協議会を開催してほしい。」との質問では、「アンケートの際は、保育園や幼稚園に通っている未就学児の保護者にも協力していただきました。今後、協議会を設置する際にも未就学児の保護者に参加していただける体制を作っていきたいと考えています。」と回答している。

- ・各学校の意見交換会において質問が多かった「過去の藤山台小学校の統合」及び「他市の事例」を紹介する。(資料記載なし)

- ・藤山台小学校の統合について

当時のスケジュールは、平成21年12月に「小中学校の適正規模等に関する基本方針」を策定し、「藤山台小学校を最優先に過小規模校の早期解消」の考えを示した。その後、平成22年4月に、藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置され、平成24年2月には、「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第1次小学校統合計画」、平成25年2月には、その「第2次小学校統合計画」を策定した。そして、平成25年4月に、藤山台小学校と藤山台東小学校が統合し、平成28年4月には、西藤山台小学校も統合し、新たな藤山台小学校が開校した。協議会が設置されてから、開校まで6年の期間がかかっている。

なお、西藤山台小学校の通学区域であった白山町5丁目は、協議により、不二小学校の通学区域となった。

統合の成果など良かった点としては、「子どもへの影響」「学校運営への影響」「地域への影響」で分けられる。

子どもへの影響については、「新しい校舎や設備など充実した環境で、過ごすことができる。」「児童の数が増え、クラス替えもできるようになり、多くの友達とコミュニケーションができるようになった。」などがあった。

学校運営への影響については、「運動会をはじめとする学校行事が活発になった。」などがあった。

地域への影響については、「地域住民の地域や子どもに対する関心が高まり、地域イベントが充実してきている。」などがあった。

課題など今後の取組に参考となる意見については、「統合で校区が広がり、通学距離が長くなった児童がいる。」「統合したものの、魅力ある学校づくりには至っていない。」「2段階の統合も仕方がないが、1度で済む方が望ましいと思う。」「保護者の意見は様々あるため、早めの情報発信が必要である。」などがあった。

- ・他市の事例（瀬戸市「にじの丘学園」）

瀬戸市の「にじの丘学園」は、小学校5校、中学校2校を統合し、小中一貫校として令和2年4月に開校した。平成26年5月に瀬戸市立小中学校PTA連絡協議会が「適正規模適正配置の推進を求める要望書」を提出してから、施設整備などの協議、工事を経て、令和2年4月に開校した。

学校の中心にライブラリーや多目的スペースを配置し、地域や子どもたちの交流が自然に生まれる場所がつくられるなど、異なる学年の子どもたちがお互いに刺激を受け、学習意欲を高め合える場となっている。

小中一貫教育の導入に加え、施設としても魅力ある学校づくりが推進されることで、全国的な人口減少の中でも、在籍する児童生徒数は増えており、令和2年度に663人、24学級であった小学生は、令和6年度には831人、31学級に、中学生は、令和2年度に199人、9学級が、令和6年度には324人、13学級となっている。校区内の区画整理により、住宅開発が進んでいることも要因にあると思うが、魅力ある学校づくりが児童生徒数の増加につながった例といえる。

- ・他市の事例（小牧市「篠岡地区学校再編計画」）

小牧市では、「小牧市新たな学校づくり推進計画」を策定し、速やかな対応が必要な地区として、桃花台ニュータウンが位置する篠岡地区で取組を進めている。

篠岡地区での学校再編計画を「しのおか学園構想」として、第1期再編では、5小学校、3中学校を、現在の校舎を活用し、2小学校、2中学校に再編し、令和9年4月に開校予定としている。

その後、第2期再編で1小学校、1中学校の体制に再編するのにあわせ、小中一貫校の新設を検討している。また、検討ではスクールバスについても協議されており、対象エリア等について協議が進められている。

現在は、「篠岡地区学校再編計画（案）」について、パブリックコメントが実施されている。

V 本市の考え方について（資料19ページ）

- ・「1 児童生徒数推計」から、
 - (1) 令和22年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が1学級の「過小規模」であり、小中学校の9年間でクラス替えのない環境になると推定される。
- ・「2 アンケート結果」から、
 - (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。
 - (2) 保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。
 - (3) 一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「3 地域の特性」として、
 - (1) ニュータウン地区内で、藤山台中学校区は岩成台中学校区、高森台中学校区と接している。藤山台中学校は、直線距離で、岩成台中学校から約0.9km、高森台中学校から約1.5kmの距離に位置しており、岩成台中学校が最も近い距離にある。
 - (2) 平成25年4月に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合し、平成28年4月に西藤山台小学校を統合した。現在、藤山台小学校は、中学校区の唯一の小学校である。
- ・「4 意見交換会」では、
 - (1) 参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方や市の考え方についての質問が多くあった。また、魅力ある学校づくりや他市の事例についてなど、様々な質問があった。

- ・これらのことを踏まえ、本市の考え方については、藤山台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、隣接する中学校区との学校統合に向けて検討を進めていきたいと考えている。

検討にあたっては、

- 1 子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討していく。
- 2 隣接する中学校区として、岩成台中学校区を対象に検討していく。
- 3 岩成台中学校区と合同の意見交換会や懇談会の開催を検討する。
- 4 登下校について、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討していく。

3 意見交換

【質問 1】

藤山台中学校区と岩成台中学校区を統合するとのことだが、今後の進め方を教えてほしい。

【事務局】

岩成台中学校区でも同様に、藤山台中学校区との統合を検討するという話をさせていただきました。次は、藤山台中学校区と岩成台中学校区で合同の意見交換会を開催させていただこうと考えています。その場で、お互いの地区の考え方について知るきっかけづくりをしたいと考えています。その後、統合するという方向性が固まったら、地域や保護者の代表の方などにご参加いただく懇談会を開催し、具体的な検討を進めていく予定です。いずれは、方針案を出す必要があると思いますので、その方針を市が作成し皆様に検討していただくのか、懇談会での意見を踏まえつつ方針案を作成し皆様にお示しするかは、状況によって変わってくると思います。その後、方針案に基づいて、学校を建てる場所や具体的なスケジュールなどを決定していきたいと考えています。

【質問 2】

例えば、最終的にニュータウン地区で学校を一つに統合するというようなニュータウン地区全体の構想はあるのか。

【事務局】

ニュータウン全体の構想について、現段階で具体的な考えはありません。現在の子どもの数の実数から確認できる児童生徒数推計は、小学校で令和 13 年度まで、中学校で令和 19 年度までとなっており、それ以降の児童生徒数の変遷を明確にすることは難しいです。また、国が 1 学級あたりの児童生徒数を 40 人から 35 人としていく中で、今後さらに少人数学級になっていったときに、ある程度の規模の学校

に統合したにも関わらず、教室の数が足りず増築しなければならないといった状況は望ましくないと考えています。こうしたことも考慮しながら、多角的に考えていきます。

【質問 3】

小中一貫校について、メリットなどを詳しく教えてほしい。

【事務局】

小中一貫教育は大きく分けて、2つの形があります。1つは、1つの学校の中で小学校と中学校の子どもが9年間過ごし、校長先生は1人である義務教育学校という形と、もう1つは、小学校と中学校は別で、校長先生もそれぞれいますが、連携して9年間の一貫教育を行っていくという形です。

メリットについて、「中 1 ギャップ」と言われる小学校から中学校に上がる際の子どもへの心理的負担が軽減されることや、中学校の専門的な教科の先生が小学校にも授業をすることで、より専科的な指導ができることなどが挙げられます。

【質問 4】

小中一貫校は魅力的であると思うので、ニュータウンにも建ててほしい。

【事務局】

統合の検討を進めるにあたって、魅力ある学校づくりは大きなテーマの一つであると考えています。小中一貫校はその手段の1つであると考えていますので、今後、皆様からの意見も参考に検討を進めていきたいと考えています。

【質問 5】

今後、統合の検討を進めるにあたり、段階を踏んだ説明が必要になってくると思う。その際に、今回の参加人数では少ないので、地域や保護者の代表の方に必ず参加してもらうなどの参加人数を増やす工夫が必要であると思う。今後、このようなことは検討しているのか。

【事務局】

第1回意見交換会は、平日の夜に開催させていただきましたが、保護者の方からこの時間帯では参加することが難しいという意見もいただいたので、今回は土日の日中の時間帯に設定させていただきました。しかし、今回もなかなか人が集まらない現状を見ると、そもそも関心を持つ方が少ないのか、どのような話があるのかわからないといったことにも原因があると思います。保護者や地域の方に、より関心を持っていただくために、今回の意見交換会での内容をまとめ、「かわら版」のよ

うなお知らせを作成し、Home&School や地域の回覧などで周知を図りたいと考えています。

また、今後の予定として、藤山台中学校区と岩成台中学校区で合同の意見交換会を開催した後に、保護者や地域の方の代表者などで組織する懇談会を開催していくことを考えています。

【質問 6】

未就学児の保護者の方が意見交換会に多く参加できるように、託児可能にしてほしい。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。今後、検討させていただきます。

【質問 7】

瀬戸市の「にじの丘学園」は、新しい土地に学校を建設したのか。それとも、学校を改装して建設したのか。

【事務局】

「にじの丘学園」は約 8 万㎡あります。統合の元となった中学校と、隣接する多目的公園を改修して学校を建設しています。そのため、グラウンドが 2 つあり、駐車場も整備されています。

【質問 8】

「にじの丘学園」のような大きな学校をニュータウンで建設すると考えた際に、土地の広さなどから可能なのか。

【事務局】

基本的には、新たな土地に学校を設置するという考え方は持っていないので、広い土地を確保することは非現実的であると考えています。

子どもたちの教育環境の向上のため、体育館やグラウンドの大きさは確保しなければなりませんが、茨城県つくば市の義務教育学校では、約 4 万㎡で学校が建設されています。また、名古屋市守山区では 3 小学校・1 中学校を対象に統合し、約 2 万㎡弱の土地に小中一貫校の検討が進められており、土地の広さによって工夫する必要があると思います。

藤山台中学校区と岩成台中学校区で考えたときには、岩成台中学校と岩成台西小学校が隣接しており土地の確保がしやすいとは思いますが、一つの可能性の話であって決定事項ではありません。藤山台小学校も施設が比較的新しく、子どもたちが

良い設備で生活していることも承知していますので、様々な方法を考えながら検討を進めていきたいと考えています。

【質問 9】

「にじの丘学園」の学校区の広さをニュータウン地区に当てはめるとどれくらいの広さになるのか。

【事務局】

「にじの丘学園」は通学距離の半径を 4 km と定めており、春日井市では半径 2 km を基準としていることから、中学校区 2 つのイメージであると思います。

【質問 10】

仮に藤山台中学校区と岩成台中学校区が統合する場合、事前に互いの学校の交流を深めるためのイベントを企画してほしい。

【事務局】

過去に藤山台小学校が 3 校統合した際も、子どもたちがスムーズに馴染めるように事前に交流する機会を設けています。1 回目の意見交換会でも同様のご意見をいただいております、子どもたちに負担がかからないようにするために、積極的にそのような機会を設けてきたいと考えています。

【質問 11】

藤山台中学校区と岩成台中学校区が統合すると決まった時点から、部活動を一緒にした方が良いと思う。

【事務局】

部活について、現在、平日は学校部活動として活動しており、休日は地域クラブとして展開しています。休日の地域クラブは、自分の通っている学校のクラブに参加することになっていますが、今後は所属するクラブを自由に選択することができるようになっていくと思います。一方、平日の部活動については、学校の中の活動であるので、学校ごとで進めていくと思いますが、地域クラブへの移行状況によって変わってくると思います。

仮に統合した際に、学校間の交流として部活動をともに行うことは、移動の安全性の観点からも難しいと思います。ただ、イベント的に実施することは可能であると思います。

【質問 12】

意見交換会であると少し硬い雰囲気があると思うので、ワークショップのような形で開催すると、多くの意見を聞くことができると思う。

【事務局】

ご意見のとおり、大人数の中で自分の意見を発言することは勇気がいると思います。今後検討を進めていく中では、保護者や地域の方の小さな集まりにも積極的に参加させていただき、皆様から多くのご意見をお聞きしたいと考えています。

【質問 13】

登下校のバスについて、高齢者も利用可能なバスを導入する予定はあるのか。

【事務局】

地域の皆様も利用できるようなバスを導入することも1つの手段であると思います。仮にそのようなバスを導入するとなった場合には、市の担当部署と連携するだけでなく、現在運行している事業者との調整も必要となるため、段階的に進めていく必要があると思います。

【質問 14】

「にじの丘学園」の話が多く出てきたが、瀬戸市では、田舎の学校を統廃合せずに、少人数の学校として残すところがあるという話を聞いた。春日井市でも、通学距離が遠くなり統廃合を進めることが難しいところがあると思う。各学校で特色を作っていけば、ニュータウンの人口が増えるきっかけになると思う。

また、「にじの丘学園」の通学範囲の距離を聞いて非常に遠いと感じた。小学校低学年の子どもは、猛暑の中で通うことができないと多くの保護者は考えていると思う。

魅力ある学校づくりを行うことがニュータウンの人口増加につながると思うのだが、ニュータウンの人口を増やすことが先であると思う。そうすれば、学校を統合する必要もない。ニュータウン地区のまちづくりのための政策はどうなったのか。

【事務局】

ニュータウンの活性化の施策については、ニュータウン創生課が中心となり「リ・ニュータウン計画」に基づいて、人口増加のための取組を続けています。しかし、全国的に少子化が進む中、ニュータウン地区だけが子どもの数が増えるということは現実的に難しいと思います。子どもの教育環境の向上を考え、ニュータウン活性化のための取組と学校の適正規模等の取組は、並行して進めていきたいと考えています。

【質問 15】

魅力ある学校をつくることで、その学校の周辺を中心に人口が増えていくと思う。そうすると、他のニュータウンの学校が廃れてしまうのではないか。

【事務局】

そのような可能性は否定できませんが、魅力ある学校づくりをすることで、近隣他市からも人に来てもらいたいという思いはあります。

【質問 16】

どのような意見がまとまったら統合すると決定するのか。また保護者の方は、登下校に関しての不安が大きい。具体的な統合案があると、保護者も考えやすくなると思う。

【事務局】

統合を決定する基準について明確なものはありません。市としては、子どもの教育環境の向上のために、なるべく早く取り掛かりたいと考えています。今後、具体的な議論を進めていき、最終的には市が判断します。

今後は、岩成台中学校区との合同の意見交換会を開催し、そこでのご意見も参考にしながら、市の考え方をまとめた基本方針を作成していきたいと考えています。その後、学校の場所やバスの運行など、より具体的な統合案を皆様と考えていきたいと思います。

【質問 17】

地域クラブについて、通っている学校に関係なく好きなところに所属できるようになると、人気あるクラブに人数が偏ってしまうと思う。

【事務局】

地域クラブでも少子化の影響を受けており、参加する子どもの数が減っています。また、指導者の数も減っているので、近隣の学校と合同化することを進めています。そのため、土日は好きな所属クラブを選ぶことができるようにすることで、活動の場を確保したいと思っています。一方で、平日は保護者の送迎が難しいため、学校の中に残していきたいと考えています。地域クラブについての情報も早い段階で市民の皆様にお伝えしていきたいと思っています。

【質問 18】

魅力ある学校づくりのための議論に、不登校の子どもを持つ保護者が置き去りにされていること気になる。不登校の子どもたちにとっても魅力があるような学校をつくってほしい。

【事務局】

不登校の子どもは、春日井市でも以前と比べて増えています。魅力的な学校づくりの一環として、特色あるカリキュラムの導入やコミュニティスクールの推進、小中一貫教育の導入の他に、学びの多様化学校の設置についても全国的にも進められています。春日井市では不登校対策として、中学校に登校支援室の設置やスクールソーシャルワーカーやカウンセラーによる家庭訪問などの取組をしています。

今回の統合の検討につきまして、増え続けている不登校の子どもたちを決して忘れることなく、検討を進めていきたいと思います。

【質問 19】

不登校の子どもたちが行きやすくなるような学校を全国の先進的な例を参考にしながら進めてほしい。また、学びの多様化学校をニュータウン地区に設置することができたら、相乗効果として良くなっていくと思う。春日井市の不登校の子ども数は増えているが、対策はとても先進的であると思う。

【事務局】

不登校の子どもに対して、学校に通わせることだけが正解ではなく、フリースクールなどに通うことも1つの選択肢であると思います。

成長段階にある子どもは、友達に出会うことが非常に大事であり、友達に恵まれると学校生活は楽しいものになり、友達がいないと学校に行かなくなるきっかけになります。そのため、1人でも多くの友達に出会うことは必要だと思いますので、一定の学校規模を確保することは、今後、不登校の子どもたちにとって、きっかけとなる取組であると考えます。

【質問 20】（意見）

私は、不登校支援を行っている。不登校の子どもたちが学校にいけない理由について、「不登校の理由がわからない」ということが、多くの子どもたちと接する中でわかった。不登校の原因がわからないため、不登校の子どもたちの現状を受け入れてあげることが何よりも大事である。その経験をもとに、子どもたちは元気になっていくと思う。また、学校が様々な問題を抱える子どもたちを受け入れられる機能を持つものに発展することができれば、それに越したことはない。

【教育部長総括】

本日は少人数だったからこそ、様々な意見を聞くことができましたが、多くの人から意見をお伺いしたいと考えております。そのため引き続き、このような場があれば、少しでも多くの方にお声がけいただくと助かります。

まず、スケジュールについて、少子化の流れを皆様にご理解いただいたと思いますが、喫緊の課題であると捉えております。現在、地区ごとに意見交換会を開催させていただいていますが、ある程度、意見がまとまったところから、早く着手していきたいと考えています。今回、藤山台中学校区と岩成台中学校区の統合を提案させていただきました。今後、懇談会など様々な場所で、議論を積み重ねていきますが、どうなっていくのかはまだ決定事項ではないので、話が行ったり来たりすることもあると思います。また、必ずしも藤山台中学校区と岩成台中学校区の2つだけで統合するというわけではなく、ニュータウン全体で見たときに、本当にこの組み合わせでよいのかどうかを、隣接している石尾台中学校区や高森台中学校区の動向を見ながら方向性を示す必要があると思います。

情報発信については、こういった場に来られない方に向けて、わかりやすい「かわら版」のような形で随時、必要に応じて発信していきたいと思います。特に、未就学児の保護者の方にはもっと参加していただきたいと思います。前回、岩成台中学校区で意見交換会を開催した際も、託児についてご意見をいただいたので、実施しようと思います。ただ、高森台中学校区と石尾台中学校区の第2回意見交換会では、すぐに対応することは難しいと思います。そのため、次の段階で対応していきたいと思います。

仮に藤山台中学校区と岩成台中学校区で統合となった際に、交流があるのかということについては、当然市としても、学校としても、子どもたちや学校に関わっている方々の交流は行う必要があると思います。一方で、地域の方も様々なイベントや催しを開催されていると思いますので、機会あるごとに市と地域の方がそれぞれ同じ方向に向かって進んでいければと思います。

まちづくりについて、ニュータウンの人口を増やせばよいということは、ご意見のとおりですが、全国的な少子化の流れの中で、人口を増やすということに取り組んでいるものの、時間がかかり、成果がなかなか見えてきません。そのため、喫緊の課題である少子化に伴い学校の規模が小さくなっていくことを、先に解決していきたいという意気込みです。

部活動や地域クラブについて、これまでの歴史の中で、学校や教員が担ってきた部活動の役割というものを受け継いでいますが、時代が変化してきて、学校や先生の役割について考え方を変えていく必要があります。部活動や地域クラブの課題に

については、今後、ある程度方向性を示して、ご理解を求めていくような形になると思っています。

いずれにしても、次の段階としては、藤山台中学校区と岩成台中学校区の合同の意見交換会を開催したいと思っています。互いに何を思っているのか、何を期待しているのかを知っていただく良い機会になると思います。その際には託児も準備させていただきますので、お声かけのほど、よろしくお願いします。

4 その他

【事務局】

- ・今後の進め方について、藤山台中学校区と岩成台中学校区との学校統合に向けた検討を進めるため、両地区合同で意見交換会を実施したいと考えている。
- ・次の意見交換会の日時等については、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へは Home&School で、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

正午 閉会